

告 辞

早春の息吹が感じられる季節となりましたが、本日、県立総合衛生学院看護学科の閉科を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本学科は、1951年（昭和26年）に、私立不二越病院附属甲種看護婦養成所を引き継ぎ、県立中央病院附属高等看護学院を開設した際に設けられ、以来、70年の長きにわたり、5,200名余りの看護職員を県内外の医療機関等へ輩出してまいりました。

卒業生の皆様は、人々への深い関心と洞察力・判断力・倫理観を備えた健康の担い手として、保健・医療・福祉の幅広い分野で活躍されています。また、新型コロナウイルス感染症により、緊張感が伴う厳しい状況が続くなかでも、誇りと使命感を持って、各所で献身的にご尽力をいただいているところです。

ここに、これまで本学科を支えてこられた歴代学院長をはじめ教職員の皆様、県立中央病院及び関係の皆様のご尽力、そして、卒業生の皆様のご活躍に、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

近年、医療の高度化や専門化、災害や新たな感染症の発生、また共生社会をめざした福祉分野での看護のニーズの高まりなど、保健・医療・福祉を巡る社会情勢は大きく変化しています。また、医療機関をはじめ、在宅医療や介護の分野でも看護職員がリーダーシップを発揮し、他の専門職と連携して質の高いサービスを提供することが求められています。

こうした看護師を養成する本学院の役割は、4年制の県立大学看護学部へと引き継がれています。より質の高い教育によって、本県の将来を担う意欲ある人材を育成し、医療の高度化・専門化、地域包括ケア体制の整備への対応など、医療等の現場からの多様な専門性の高いニーズに応えていけるよう、県としても関係機関と連携し取り組んでまいります。

本学科の輝かしい歴史と功績は、関係者の皆様の胸に深く刻まれ、長く記憶に残ることと確信しています。

終わりに、これまで本学科の発展と看護教育の充実にご尽力を賜りました関係の皆様を重ねて深く感謝申し上げますとともに、本日ご臨席の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたします。

令和3年3月4日

富山県知事 新田 八朗